



「沼間の隠れた名所」

『沼間の名所』

もともと絵を描くことが好きでした。白内障の手術をしてもう一度、絵を始めようと手軽にできそう

逗子の景観まちづくり

瓦版 第六十六号

二〇二〇年一月十五日 次号は四月発行予定

編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百五十文字以内の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp

な水彩画に入門しました。最初は植物や果物などを描いていましたが、次第に風景も描きたくなり、写真に撮り、家でゆっくり描いています。先生に指導いただき、仲間と一緒に描くことも楽しそうと「パレットクラブ」にも入会しました。

20代のころから何十年も住んでいる沼間ですが、スケッチを始めたら、絵にしたくなるような風景がいくつもあることに気が付きました。「五霊神社」もそうです。普段は神主さんや宮司さんがいるわけではないので、夏祭りなどに参拝するくらいですが、地域の自治会のみなさんが掃除をしたりして見守っています。お正月は1日にお参りして祝箸（いわいばし）をいただきます。近所の方々もそぞろ参拝され、お正月らしくなります。

もう1つは、横須賀から東逗子にむかう沼間6丁目の線路沿いの道から見える富士山です。車で自宅に帰る途中、坂道を下っていくと正面に富士山がパッと現れます。昔は横須賀線の電車と富士山を入れた写真撮りに来る人がいました。今は、Yナンバの車の人が撮影していることもあります。友人にスケッチを見せると「こんなに綺麗に見える所はどこ？」と聞かれます。沼間の隠れた名所だと思って



「五霊神社」

います。

逗子といえば海というイメージが強いですが、こうして山間から見える富士山も悠々として見事。緑も逗子の大切な風景ですね。

文・絵 伊藤 香代子



「逗子の景観を考える」では、逗子の景観を保全し、はぐくみ、形成するための市の取り組みを紹介していきます！



景観計画推進プランってなに？ 4

前回の瓦版では、逗らしい美しいまちを育てるために策定した「景観計画推進プラン」のうち「民間施設・商店街」についてご説明しました。今回は具体的な取り組みの3つ目「緑化推進」について紹介します！

今回のテーマ 緑化推進

丘陵の緑だけでなく、住宅地にある緑の街路も逗子の魅力の一つです。住民による居住空間の緑化を推進することで、潤いあるまちなみ景観の向上を目指します。

現在逗子市が用意している助成制度は、生垣助成制度とシンボルツリー助成制度です。また、景観意識の普及啓発にも活用している「まちなみデザイン逗子」にも、緑化の事例などを挙げ、市民が緑化に対し意識を向け、積極的に取り組むよう促しています。「まちなみデザイン逗子」はまちづくり景観課の窓口で無償配布しています。

緑化助成制度のご紹介♪

- ◇ シンボルツリー助成制度
- ◇ 生垣助成制度

緑はまちなみに四季の彩りを添え、心を癒してくれるだけでなく、騒音軽減、空気洗浄、防火対策など



様々な効果があります。市ではシンボルツリー用樹木や、生垣用樹木の無償配布を行っています。年度予算に限りがありますので、お申込みはお早めに！ 詳細は市HPをご覧ください。

受付期間：2020年4月～2020年12月末

お問い合わせは緑政課（☎046-873-1111 内線466）まで



危険なブロック塀などの撤去費用助成制度

緑化助成制度と合わせてどうぞ♪

市では、危険なブロック塀等を撤去するための工事費用の一部を補助します。補助制度を受けるためには、業者契約前に、事前の申請手続きが必要です。ブロック塀は作り替えではなく、一部もしくは完全に撤去する必要があります。

受付期間：2020年5月中旬～2020年12月末

お問い合わせはまちづくり景観課（☎046-873-1111 内線462）まで



補助対象のブロック塀等

次の3要件すべてに該当するブロック塀

1. 地震等の災害時に避難所等まで避難する通り抜け可能な道に面したもの
2. ブロック塀の延長（長さ）が1メートル超え、かつ道路面から高さ1メートルを超えるもの
3. 点検において改善を要するとされたもの



逗子景観賞 Vol.8 高尾邸 垣のしつらえ

取材：逗子文化の会

1993年の第2回景観賞のひとつが、高尾邸のしつらえです。大正時代の築ではないかという日本家屋を50年ほど前に故高尾泰孝氏が購入。その後、家は建て直しましたが、生垣や門などはできるだけ昔の雰囲気を保つようにしました。

「守ることもなかなか大変で、景観賞をいただいたときの四ツ目垣（竹垣）もほとんどが壊れてしまいました」と奥様の陽子さんが残念そうに語られます。「この近所だけでも景色がずいぶん変わってしまいました。緑はまちの財産。個人での維持管理は難しいことも多いのですが、逗らしい風景が

多く残ってほしいと思っています」（娘の温子さん）。

「受賞理由であった四ツ目垣もないので、このまま景観賞のプレート飾っていてもいいのかしらと思っています（温子さん）」とおっしゃいますが、高尾邸のしつらえは今もお逗子の魅力的な景観の一つといえるのではないのでしょうか。

